



私は差別なんかしていない



と、思っていないんですが



「部落差別をなくする運動」強調旬間 記念講演会

部落問題を
通して考える

日常の中の差別

2025 7.8 (火)

14:00-15:30 (13:30開場)

高知県立県民文化ホール グリーンホール

先着500名

入場無料/申込不要/全席自由/手話通訳あり
託児あり※6月27日(金)12時までにご予約ください。



講師: 上川多実 Kamikawa Tami

関西の被差別部落出身の両親のもと、東京の部落ではない地域で生まれ育つ。「わたし」から始まる「部落」の情報発信サイトBURAKU HERITAGEの運営メンバーの一人で、現代の見えづらい部落問題について発信をしている。単著に『寝た子』なんているの? 見えづらい部落差別と私の日常』里山社。共著に『部落の私たちがリモートで好き勝手にしゃべってみた』解放出版社。

問い合わせ先: 高知市人権同和・男女共同参画課 TEL(088)823-9449



『祝の島』につづく
横瀬あや監督作第二弾



ある精肉店のはなし

いのちを食べて いのちは生きる

大阪貝塚市での屠畜見学会。牛のいのちと全身全霊で向き合うある精肉店との出会いから、この映画は始まった。家族4人の息の合った手わざで牛が捌かれていく。牛と人の体温が混ざり合う屠場は、熱気に満ちていた。店に持ち帰られた枝肉は、丁寧に切り分けられ、店頭に並ぶ。皮は丹念にめされ、立派なだんじり太鼓へと姿を変えていく。家では、家族4世代が食卓に集い、いつもにぎやかだ。家業を継ぎ7代目となる兄弟の心にあるのは被差別部落ゆえのいわれなき差別を受けてきた父の姿。差別のない社会にしたいと、地域の仲間とともに部落解放運動に参加するなかで、いつしか自分たちの意識も変化し、地域や家族も変わっていった。2012年3月。代々使用してきた屠畜場が、102年の歴史に幕を下ろした。最後の屠畜を終え、北出精肉店も新たな日々を重ねていく。いのちを食べて人は生きる。「生」の本質を見続けてきた家族の記録。(上映時間 108分)

部落差別をなくする運動強調旬間 映画上映会

ある精肉店のはなし

2025年7月15日(火)

長浜市民会館 (高知市長浜4250-7)

上映開始 14:30 (14:00開場)

先着 50名 入場無料/申込不要/全席自由/字幕あり
駐車場あり※台数に限りがあります

「部落差別をなくする運動」強調旬間事業

1969(昭和44)年7月10日に「同和対策事業特別措置法」が施行されたことにちなんで、7月10日から20日までを「部落差別をなくする運動」強調旬間と定め、部落差別を解消していくためのさまざまな取組が行われています。高知市では、記念講演会「部落問題を通して考える日常の中の差別」と、映画「ある精肉店のはなし」上映会を実施します。

「部落差別の解消の推進に関する法律」が2016(平成28)年12月16日から施行されました。この法律は、今もなお部落差別が存在するとともに、情報化の進展に伴って部落差別をとりまく状況の変化が生じていることをふまえ、すべての国民に基本的人権を保障する日本国憲法の理念にのっとり、部落差別の解消を推進し、差別のない社会を実現することを目的としています。

主催/高知市・高知市教育委員会

後援/高知新聞社、朝日新聞高知総局、読売新聞高知支局、毎日新聞高知支局、NHK高知放送局、RKC高知放送、KUTVテレビ高知、KSSさんさんテレビ、KCB高知ケーブルテレビ、エフエム高知

問い合わせ先: 高知市人権同和・男女共同参画課 TEL(088)823-9449